

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 令和3年11月2日（火）
学 級 北上市立飯豊中学校
3年B組 32名（男子15名、女子17名）
授業者 教諭 中村 大輔

1 単元名 第3章 現代社会の民主政治と社会 3節 地方自治と私たち
(東京書籍 新編 新しい社会 公民 p.110~p.119)

2 単元について

(1) 単元の位置付けと扱う教材について

本単元は、学習指導要領公民的分野の内容C私たちと政治の(2)民主政治と政治参加にあたり、地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の仕組み、住民の権利や義務について理解させることを主なねらいとしている。また、本単元は公民的分野の中でも政治学習のまとめに位置付けられており、民主政治の仕組みのあらましや議会制民主主義の意義等を学んだ上で、住民自治を基本とした地方自治のあり方を学ぶことにより、自分たちが政治に参加し、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする意識を育成することが意図されている。

地方自治は“地方自治の本旨”の実現のため、地方分権と共に取り組まなければいけないものである。国からも今後の基礎的自治体は、国や都道府県との適切な役割分担の下に、自立性の高い行政主体となる必要があるとの考えが提示されている。

この地方自治をこれから進めていく上で、その地域の住民が主体的に地域の行政や経営に取り組む住民自治を確立することが重要になってくる。本単元において未来を担う子どもたちが、自分たちの住んでいる地域の課題を見出し、自分たちの暮らしをより豊かにするための解決策を考察、構想し、地方公共団体の運営に参加していくことの必要性について実感をもって学ぶことは、地方自治の本旨の実現につながるものと考えられる。地方分権が進む中で、地方自治を発展させていくために、将来の担い手である子どもたちの地方自治への意識付けを図っていきたい。

(2) 単元と生徒との関わり

本単元に関する生徒の実態を把握するために地方自治に対する事前調査を行った。質問内容と結果は以下のとおりである。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | あなたが住んでいる北上市について解決して欲しいことや要望はありますか。 |
| | 「ある」…12名 「ない」…20名 |
| 2 | 自分の意見を北上市に届ける方法を知っていますか。 |
| | 「知っている」…3名 「知らない」…29名 |

この結果から、身近な地域について、課題と感じていることや解決して欲しいと感じていることを多くの生徒はもっているものの、それを北上市に届ける方法が分からずにいる生徒が大多数であることが分かった。また、令和3年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に対して「当てはまる」と答えた割合は、本校4.9%、全国12.6%となっており、比較してみても低いことがわかる。

本単元を通して、地方自治の基本的な考え方や仕組み、住民の権利などを理解させるとともに、自分たちが住む北上市の課題をさまざまな視点から考察し、それらを意見・要望として届ける活動を通して、身近な地域の政治に自分たちが参加しようとする主体的な意識を育てていきたい。

(3) 単元と本校研究主題とのかかわり

本校では、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践を行うことによって、主体的に学習に取り組む生徒を育てることを主題として研究を進めている。

社会科では「主体的に学習に取り組む生徒」について、以下のようにとらえている。知識・技能の獲得や思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとし、その取り組み過程で自らの学習を調整しようとする中で、「社会的事象について、国家および社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする」生徒である。

焦点化、視覚化、共有化を重点とする全14の視点を取り入れて「分かる・できる」実感をもてる授業を継続して実践することで、粘り強く、そして自ら調整しながら学習を進めていく生徒を育成することを目指している。

本単元は地方自治についての学習である。自分たちが住んでいる地域にはどのような課題があり、解決していくために、地方自治の考え方や仕組みなどを意識し、地方公共団体の活動にどのようにして参加することができるのかということを考えたり実践したりすることを通して、社会の形成者の育成につなげていきたい。ただ、市政に届ける自分の意見が一部の人たちだけが利益を得るような意見になっていないか、今そのようなことは必要ななど、多面的・多角的に考えることによって社会科の目標の達成にもつなげていきたい。そして実際に自分の意見を行政に届ける活動を通して、社会科の主体的に学習に取り組む生徒を育てることにつながり、地方自治の学習の中でよりよい町づくりのために意見を届けるということに焦点を当てることによって、意見を考えながら「分かる・できる」の実感を持つことができる授業になると考える。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

知識・技能	地方自治の基本的な考え方について理解する。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解する。
思考力・判断力・表現力等	効率と公正、地方自治の考えや仕組み、地方公共団体の課題などに着目して、地方自治の推進と、地方公共団体への地域の人々の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
学びに向かう力、人間性等	よりよい町づくりのために自分たちの住む町の課題を見つけ、様々な視点から市政に届ける意見を追究する。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。	効率と公正、地方自治の考えや仕組み、地方公共団体の課題などに着目して、地方自治の推進と、地方公共団体への地域の人々の政治参加との関連について対話的な活動を通じ、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	よりよい町づくりのために自分たちの住む町の課題を見つけ、様々な視点から市政に届ける意見を追究している。

4 単元全体を通じた指導と評価の計画【単元構想】

単元全体の追究課題 よりよい町づくりのために市民と議会をつなぐ会にどんな意見を届けたいだろうか

評価に用いる評価(●)、学習改善に用いる評価(○)

	学習課題とねらい	評価の観点			評価規準と方法
		知	思	態	
1	単元導入、地方自治 「私たちの北上市から、地方公共団体を考えよう」 ・自分たちの暮らしの中での課題や改善点などを考える。 ・単元の最後に市政に自分たちの意見を実際に届けるという単元課題を設定し、単元に対する意識を高める。			○	自分たちの暮らしの中の改善点や課題点を考察している。【レポート】
	私たちの生活と地方自治 「地方自治はどのような考えに基づいて行われているのか」 ・地方公共団体の役割について理解する。 ・地方自治がどのような考えに基づいているか、地方自治の原則に着目して考察する。	○			地方自治の考えや地方の役割を理解している【小問題】
3	地方自治の仕組み 「地方自治はどのような仕組みで行われているのだろうか」 ・地方自治の仕組みについて理解する。 ・住民の意思を生かすための仕組みや権利を理解する。	○			地方自治の仕組みを理解し、国の政治との違いを理解している。【小問題】
	地方公共団体の課題 「地方公共団体には、どのような課題があるのだろうか」 ・自分たちが住む地方公共団体を調べ、地方公共団体にはどのような課題があるかについて理解する ・地方自治体による格差について理解する。	○			地方公共団体の課題を理解し、自分の住んでいる地域の課題を理解している。【観察、振り返り】
5	住民参加の拡大と私たち 「住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされているのか」 ・住民が地方公共団体の政治に参加する方法について理解する。 ・住民の声を生かした政治を実現するために、どのような取り組みがなされるべきか考察する。 ・どのような意識で地方公共団体の運営に関わっていかなければいけない考察する。			●	住民の政治参加の仕方を理解し、自分たちの地域でどのような取り組みができるのか考察している。【振り返り】
	政治参加をしてみよう① 「学習した視点を生かし、意見を作り直そう」 ・単元で学習してきた内容をいかし、授業前に考えた自分の意見と比較しながら市政に届ける自分の意見を吟味する。			●	学習してきたことをいかし、様々な視点から市政に届ける意見を再検討している。【観察、レポート】
7	政治参加をしてみよう② 「自分の意見を市政に届けよう」 ・実際に市政に意見を届ける活動を通してより身近に地方自治を感じさせ、自分も町づくりを担っているという意識を高める。			●	自分の意見をもとによりよい町づくりについて交流し、考えている。【観察、レポート】

5 本時の指導

(1) ねらい

単元で学習してきた内容をいかし、授業前に考えた自分の意見と比較しながら市政に届ける自分の意見を吟味する。

(2) 評価規準

おおむね達成	未達成の生徒への支援・手立て
【思考・判断・表現】 学習してきたことをいかし、様々な視点から市政に届ける意見を再検討している。 【観察、レポート】	意見を考察する際の視点を提示したり、グループでの話し合い活動への参加に積極的に促したりするなどして、本時の学習に対しての意識付けを図る。

(3) 指導構想

本時は、地方自治の考え方や地方公共団体の仕組みや課題を理解した上で、自分たちの身近な地域をよりよくしていくために自分の意見を考察し、学んだことを生かし、市政に届ける意見を考察し構想していくことをねらいとしている。

「学習した視点を生かし、意見を作り直そう」という学習課題を導くために、導入では、これまで学習してきた地方自治の学習の内容の中で、自分の意見を再検討する視点となる部分を確認する。課題の追究では、自分の意見が地方自治の現状やお金の使い方、効率と公正の視点など多面的・多角的な視点からもう一度検討し、実際に市政にどんな意見を届けるのかということを考えさせていきたい。学習前の生徒たちからの市政に届けたい意見としては自分の生活の改善のためや一部の人にしか利益がない意見などが予想される。そのような意見を地方自治の仕組みや考え方、地方公共団体の課題、効率と公正の視点などから考えたうえで「市政に届けるべき意見」とはなにかということを考えていくことを目指す。これはユニバーサルデザインの視点の「焦点化」に関わる部分である。

授業の導入場面では地方自治の仕組みや考え方、地方公共団体の課題と財政、効率と公正の視点を全体で確認をする。

授業の構想場面では、学習の前に自分が市政に届けようと考えた意見をもう一度確認させる。その意見が市政に届ける意見としてどんな視点や考え方が足りなかったのかを個人で考えさせる。その上で、市政に届ける新しい意見として前時までに学習したものや導入で確認したものをいかして市政に届ける意見をもう一度考えさせる。その後、小グループで交流を行う。ユニバーサルデザインの視点の「共有化」に関わる場面である。ここで多くの意見を共有させながら、様々な意見があることに気付かせたい。

ユニバーサルデザインの視点を取り入れるとともに、身近な教材を活用した課題解決的な学習を実践することにより、本校社会科の目指す「主体的に学習に取り組む生徒」を育てる本時としたい。

(4) 黒板使用計画

単元全体の追究課題

よりよい町づくりのために市民と議会をつなぐ会にどんな意見を届けたらよいだろう

学習課題

学習した視点を生かし、意見を作り直そう

効率と公正

1 時間目の
ポイント

2 時間目の
ポイント

3 時間目の
ポイント

4 時間目の
ポイント

5 時間目の
ポイント

(5) 展開

本時：6/7時間

段階	学習活動	指導上の留意点等	UDの視点 ◆評価
導入 10分	1 地方自治の復習	・地方自治の学習を通して学んだ内容を地方自治の考え方、仕組み、地方公共団体の課題、効率と公正の立場からポイントとなる部分を確認し提示する。	UD《スパイラル化》 既習事項の復習
	2 学習課題の設定	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習した視点を生かし、意見を作り直そう </div>	
展開 33分	3 学習前に考えた自分の意見の確認	・地方自治の学習の導入として記述した市政への自分の意見をもう一度確認させる。	
	4 構想	・自分の意見が地方自治の基本的な考え方、仕組み、地方公共団体の課題、効率と公正の立場などから自分の意見を再検討させる。 ・小グループを編成し、発表させる。その中で地方自治の視点を意識させながら指摘し合い、さらに練り直させる。 (1) 個人で視点を見ながら届ける意見を再検討させる。 (2) 小グループで発表し合い、お互いの意見に指摘し合わせる。	UD《視覚化》 これまで学習してきた内容を黒板に掲示する UD《共有化》 他者の異なる意見の共有
	5 全体発表	・代表の生徒を選び、全体で発表させ、共有させる。	
終末 7分	6 振り返り	・本時の学習を通して学びが深まったこと等についての振り返りを行い、発表させる。	UD《共有化》 まとめ振り返りの共有 ◆学習してきたことをいかし、様々な視点から市政に届ける意見を再検討している。 【思考・判断・表現】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 地方自治の勉強をする前の自分の意見は一部の人だけの利益になることしか考えられていなくて、地方公共団体の財政の事も考えられていなかったことに気付いた。意見を考える時はいろんな考え方や立場を考えなくてはいけないことがわかった。 </div>		